

Libra | on

vol. 39

りぶらいおん

<http://www.libra-sc.jp>

特集：図書館見学報告

山口市秋穂（あいお）図書館・伊万里市民図書館

11月14日・15日
「りぶらまつり」を
開催しました!!



- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.34
- 「りぶらまつり 2015」開催報告
- 「耳マーク」のある場
- りぶらサポータークラブからのお知らせ

次年度りぶらサポータークラブは、『新世紀岡崎チャレンジ100』の事業として、『困ったときには図書館へ』の連続講座を開催します。


岡崎市図書館交流プラザ

図書館交流プラザ（愛称:Libra）は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ（LSC）は、Libraの施設活用をサポートする活動をしています。



山口市秋穂（あいお）図書館・伊万里市民図書館 見学報告書（平成 27 年 9 月）

りぶらサポータークラブ 戸松恵美

はじめに

今回図書館見学を思い立ったのは、図書館業界では評判の「伊万里市民図書館」が 20 周年を迎え、その記念事業として、9 月 6 日から 5 回にわたり連続講座を開催するという情報を得たことからでした。9 月 6 日の講座は、九州大学准教授の岡幸江さんで、テーマが『場としての図書館を考える ～生涯学習の視点から～』でした。

私はりぶらのオープン前、「おかざき図書館倶楽部」の会員として活動していたときに、『図書館雑誌』（2008.6）の「場としての図書館」の特集に、『※3 図書館活用という時間軸をデザインする』という一文を掲載していただいたこともあり、「場としての図書館」という言葉に惹かれました。また、りぶらサポータークラブの立ち上げに、「図書館フレンズいまり」の活動を参考にさせていただいた経緯もありましたので、これを機に見学にと思い立ちました。

また、『図書館雑誌』への寄稿のきっかけとなった「図書館の学校」の講演で出会った原田洋子（ひろこ）さんが「図書館と友だちの会・秋穂」で活動している山口市秋穂（あいお）図書館は、りぶら開館の 2 年後に開館しています。「図書館と友だちの会・秋穂」の会員の皆様は、りぶら開館前の 7 月にりぶらを見学されていて、原田さんとはそれ以来となっていましたので、この機に訪ねてみようと思いました。

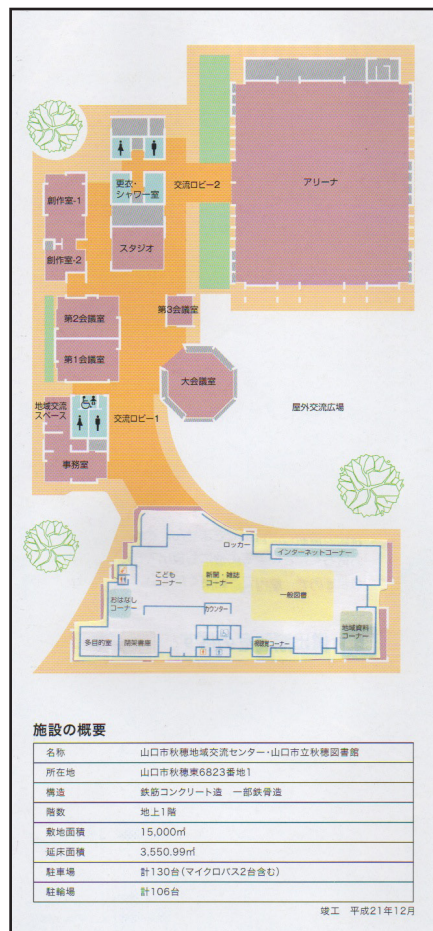
山口市秋穂図書館

平成 27 年 9 月 4 日（金）

山口市秋穂図書館は山口市に 6 つある公立図書館の一つです。瀬戸内海に面する秋穂地区（人口約 7,000 人弱）に、2010 年 8 月 1 日に秋穂地域交流センター併設の形でオープンしています。

原田さんを訪ねましたので、直接図書館員からの説明は受けませんでしたが、木の質感が暖かく、四方の窓から差し込む光でとても明るい図書館でした。地域の図書館なので職員が少ない分、市民活動団体との協働が必然のようでした。りぶらの見学時にも職員と一緒にみえていました。地域交流センターの見学で、センター長さんと少しお話しさせていただきましたが、職員と市民の距離がとても近いと感じました。

地域のいち図書館ですが、「図書館と友だちの会・秋穂」は 2006 年 7 月の設立で、オープンまで 4 年の間に、図書館に関係のある講座「あれこれシリーズ」を 15 回開催し、開館後も継続して開催しています。原田さんは、その講師を全国各地に訪ね、人脈をつくりながら活動に活かしていました。私が訪ねた当日は「布絵本づくり」の方々の活動日で、直接お話を聞くことができました。その他にも、「市民と職員の交流広場（年 1）」「おしゃべりサロン（月 1）」「おもしろ雑学講座（年 2）」「図書友ミニトーク（年 2）」「図書館まつり（年 1）」「ビブリオバトル」など、幅広く企画運営されていました。



施設の概要

名称	山口市秋穂地域交流センター・山口市立秋穂図書館
所在地	山口市秋穂東6823番地1
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
階数	地上1階
敷地面積	15,000㎡
延床面積	3,550.99㎡
駐車場	計130台(マイクロバス2台含む)
駐輪場	計106台

竣工 平成21年12月

岡崎に比べると人口や図書館の規模（職員 5 名：再任用職員 1 名（館長）・嘱託 2 名・臨時 1 名）は小さいですが、市民活動団体としての取り組みは、りぶらサポータークラブと同規模ではないかと驚きました。「布絵本づくり」は、LSC の新しい取り組みにできるかもしれないと思いました。



↑中央が入り口、右側が図書館

※1「市長雑感（第 337 号）」 <http://www.city.imari.saga.jp/3273.htm>

※2「図書館フレンズいまり」 <http://www.library.city.imari.saga.jp/sonota/friends/friends.htm>

※3『図書館活用という時間軸をデザインする』 <http://www.libra-sc.jp/project/2015112616164364.html>



↑図書館入り口の展示スペース



↑本棚と机とイスが一体



↑おはなしの部屋 奥に多目的室



↑一般図書の棚



↑机の奥は畳コーナー



↑布絵本づくり

伊万里市民図書館

平成 27 年 9 月 5 日 (土)

伊万里市民図書館は、20 年前の平成 7 年 7 月にオープンしています。「市民協働」という言葉も一般的ではなかった時代に、市民団体と共に設計協議がなされ、市民と一緒に起工式が行われました。これ以降に図書館建設を進めた自治体のほとんどの、お手本となった図書館です。今回開館 20 年目にして初めて訪れたのですが、20 年の年月を感じさせない建物や設備、そして市民との関係性に驚かされました。

伊万里市の人口は 6 万人弱。図書館の蔵書収容能力は 47 万冊（現在 39 万点）で、市民一人当りの貸出は 8.59 点（平成 26 年度）。国の平均値を超えるの貸出点数で、開館当初はすっかりしていたという棚の上にも、たくさんの図書が並べられていました。

建築時の目標として掲げられた「伊万里をつくり・市民とともにそだつ・市民の図書館」のとおり、少

ない職員でありながら、職員から死角もある設計であるとか、図書館ボランティア「※2 図書館フレンズいまり」の活動拠点が設計時から組み込まれているとか、「市民への信頼が市民を育てる」という思想が覗きました。

そして、20 年を経ても、「すべての人の成長（自立・自律）と成熟・自己実現を支える教育施設こそが図書館であり、図書館はひとづくり・まちづくりを支える成長する施設である」という、「教育施設としての図書館のミッション」は活かされているようです。それは、職員の異動やボランティアの推移に関わらず、基本のサービスとしての軸であり、きちんと継承されているということでした。また、書架のあちこちにある展示棚は 40 もあり、職員の作業の大変さをうかがわせるものですが、それも、疎かにできない業務の一環であるということでした。



↑伊万里市民図書館 手前がホール



↑子ども開架室のカウンター



↑子ども開架室の真ん中にグランドピアノ

ゆるやかにつながる各ゾーンです。グランドピアノが据えられている子ども開架室の真ん中では「いすの木合唱团」の合唱もあり、くつろぎコーナーでは、テレビの視聴や囲碁・将棋が楽しめます。図書館でありながら、そんな賑やかさも許容され、職員が張り紙や注意をすることなく、市民がそれぞれに公共の場としての嗜みを供えている、そのように育っている、ということが実感されました。設計の妙で、奥にはBGMを流さず、静かに利用したい人の空間も確保されていました。

開館時の図書館長は2年目に交代、そして平成12年に就任した3人目の犬塚館長は平成22年まで10年間務められ、その後は現在まで、開館前の準備室長だった古瀬義孝氏が館長を務めています。また、平成14年から務める現市長は、「※1 市長雑感（第337号）」で図書館への思いを語られています。この環境で育まれた職員とボランティアの関係が、20年を超えて未来につなげていこうという気運につながっているようです。

見学を申し込んだ最初は、翌日の講演会の準備で対応できないと言われていましたが、当日、私一人の見学に、係長の末次氏は大変丁寧な対応をしてくださいました。また、「図書館フレンズいまり」の方々につないでいただき、たくさんのお話を聞くことができました。「図書館フレンズいまり」の活動は、リぶらサポータークラブの立ち上げの際に参考にさせていただいたこともあり、会の運営について詳しく伺う機会になりました。

20年ぶれることなく図書館と関わっていくには、お誘いパンフに記載されているように「10年近くに及ぶ市民活動の末、ステキな図書館を持つことが出来た喜びを味わうと同

時に、大切に守り育てていく責任を確認し合う」という姿勢が大切だということを確認しました。「図書館は自分の家の延長で、公共施設を使わせてもらっている感覚はない」ともおっしゃっていました。自分の家と考えるからこそ大切にできるということでした。



↑おはなし室のあがりかまち



↑子ども開架室のタペストリーも市民作



↑右側のテーマ展示棚の裏が左側の閲覧イス



↑畳コーナー 奥の机は掘りごたつ風



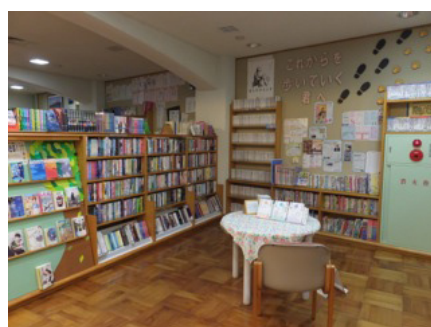
↑「のぼりがま」がモデルのおはなし室



↑一般開架室



↑テーマ展示の棚



↑ヤングコーナー



↑レファレンスの奥の芸術コーナー

伊万里市民図書館



↑雑誌コーナー



↑新聞コーナー



↑旅のコーナー



↑閲覧机



↑ DVD と映画関連の図書が同じ棚に

施設配置説明図 (アメニティ図書館)

1. 伊万里学コーナー(郷土・行政資料)	14. 雑誌コーナー
2. レファレンスコーナー	15. 新聞コーナー
3. 一般開架室 (A群: 人文科学・文学・小説・詩歌)	16. 事務室
4. 一般開架室 (B群: 社会科学・政経・歴史・技術)	17. 北の庭(読書の庭)
5. 一般開架室 (C群: 自然科学・環境・化学・体育)	18. イスの木のコーナー
6. くつろぎコーナー (テレビ視聴席・囲碁・将棋)	19. 暮らしのコーナー
7. ホール(140席)	20. AVコーナー
8. 特別展示室・展示ホール	21. 駐車場・臨時駐車場
9. 南の庭(活動の庭)	22. 本の返却ポスト
10. 子ども開架室	23. 対面朗読室
11. のぼりがまのおへや(おはなし室)	24. ぶっくん事務室・書庫・車庫
12. 旅のコーナー	25. 伊万里学研究室(陶芸コーナー)
13. ヤングコーナー	



↑伊万里学研究室(陶芸コーナー)



↑学習スペース



↑「図書館フレンズいまり」の活動拠点「フレンズコーナー」↑



図書館伊万里塾

『図書館と伊万里の未来を考える』

第1回 講師 岡幸江さん

『場としての図書館を考える

～生涯学習の視点から～

平成27年9月6日(日)



講演に先立ち、図書館長から「伊万里市民図書館は『人生に寄り添う図書館』として、『市民と共に考える』ことを基本に運営されています。皆様のライフステージを輝かせるお役に立ちたい」というご挨拶がありました。

岡さんは、九州大学大学院人間環境学研究院准教授で社会教育学を専門とし、市民教育や地域づくりと教育について、研究・教育地域貢献に取り組んでいます。学びのための「場づくり」への関心から、滞在型図書館での利用調査のため、伊万里市民図書館で調査を実施（2013年6月）され、「個々の人生に寄り添う図書館」としての伊万里市民図書館を実感したと言われました。

また、「生涯学習の場としての図書館」をきりひらいてきた渡部幹雄さんや、「自殺しなくなったら図書館へ行こう」を地でいく才津原哲弘さんの実践に触れ、「そのまちにいい図書館があることが、まちの魅力において決定的」と確信し、図書館に「人」および「人と人のつながり」がみえるかどうか、図書館への関心の基本線ということでした。以下、講演内容の概略です。

今回なぜ、「生涯学習の視点」を強調するのでしょうか。ユネスコの「学習権宣言」に「学習とは、他者と共に生きる自分を育むこと」とあります。格差や貧困が広がる今、福祉と教育をつなぐ社会的教育の視点を借れば、一人の生活世界の広がり基点を置くこと、一方で、その人生に伴走し支援する公共的支援の主体がまちに育つこと、その両方が求められていると考えます。ですから、「本」だけではなく「人」や「人の育ち」から図書館をみる必要があります。

「場としての図書館」というテーマに託したものは、以下の2点です。
①機能の前に「場」さらには「人」を考える

人生の束をなす有機体として、図書館という場が成り立っている。
②場を「利用する」市民から、場を「使いこなす」「私たちの場にする」市民への成熟へ

図書館は、本やメディアを媒介にしつつ他者や社会との新たな関係を切り開く場である。「場」は「設備」ではなく、「私（利用者）×メディア（職員・ボランティアを含む）×空間」。

伊万里市民図書館での利用調査では、土曜日の午後に「図書館のどこで何をするのが好きですか」という質問を導入に、65名の声を集めました。その結果、様々な世代から、それぞれに思い思いの好きな場所と理由を持って利用していること、人生の段階において図書館との出会い方が変わること、図書館での仲間づくりや、本と場を通して新たな世界に出会ったことなどが語られました。また、

一人ひとりが自分なりの図書館観を育んでいること、図書館の使い方と他者への配慮を学んでいること、図書館の蔵書観を利用者が持ち始めていることなどもわかりました。

伊万里市民図書館は、市民と協働の図書館建設。そのプロセスの豊かさ、さらに図書館における図書館活動&市民活動の豊かさで評価されていますが、その後の20年の歩みの中では、市民の多様性に基づく「私の一歩」を地域に刻み、市民をも育んできたのではないかと思います。

「図書館フレンズいまり」の代表は来賓として紹介され、元館長の犬塚氏は、フレンズの方々と席を同じくして、職員とボランティアの親密な協働姿勢が覗えました。会場の144席のホールは、伊万里塾をはじめ、企画展示や映画の上映会にも活用され、ステージのバックがガラス窓で、庭に面して解放される設計になっていました。庭にいる来場者に向けて演奏会を開催する場合もあるそうです。



↑ホールに設置されたガラス窓



↑合唱団の練習も行われる会議室

武雄市図書館

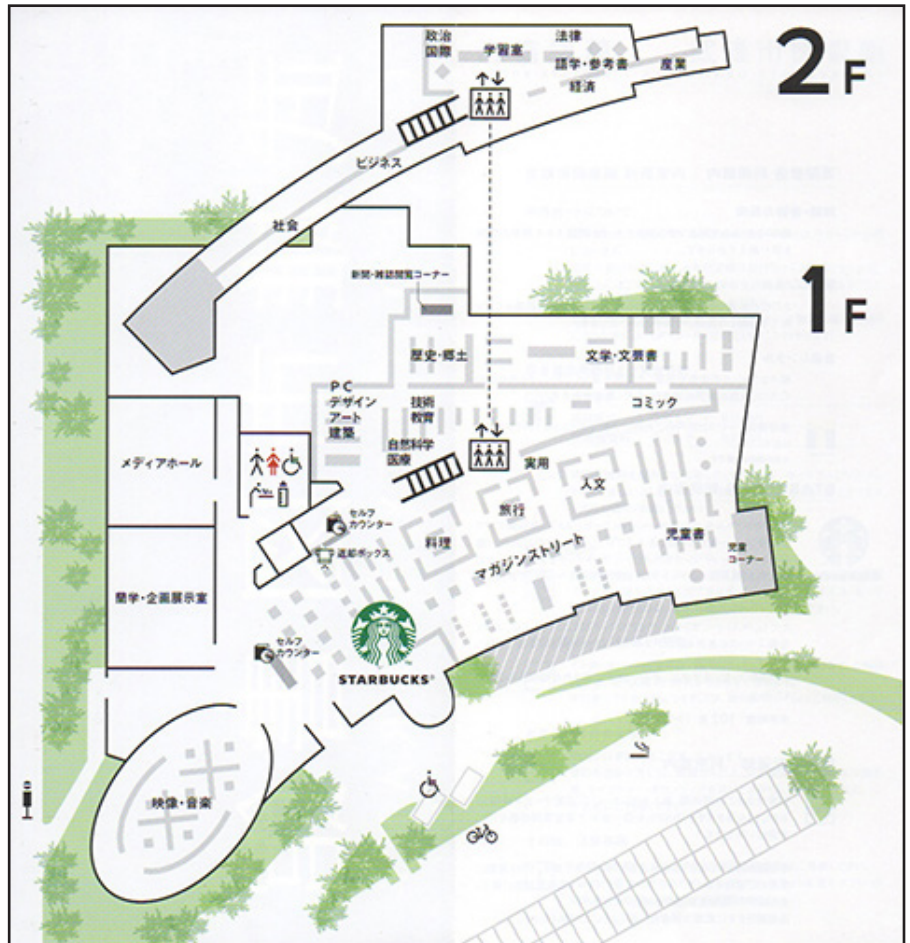
平成 27 年 9 月 7 日 (月)



時間に余裕があって、ふらっと寄った武雄市図書館は、CCCの指定管理で運営されている、TUTAYA書店とスターバックスの入った話題の図書館です。伊万里の隣市で車で30分ほどでした。これまでネガティブな情報が多く入って来ていましたが、前日、伊万里で出会った市民の方(30代後半の男性)は、「敷居が低く、伊万里の図書館よりよく行く」とおっしゃっていました。図書館関係者であることを告げると、「図書館関係者には評判悪いですね」とも。

伊万里市民図書館の見学者数は、武雄市図書館のオープン前が300人、オープン後の一昨年は約900人、2年目の昨年は1,158人という実績です。伊万里市民図書館と武雄市図書館は真逆の方向性で運営されていますので、伊万里市民図書館の見学者数が増えているのも頷けます。

武雄市図書館をモデルに新しい図書館づくりを勧める行政は首長の独断が多く、市民が置き去りにされている現状が小牧市の住民投票でも覗えます。CCCが運営する革新的な図書館も、「図書館」ではあるかもしれませんが、「市民を育てる、市民と共に育つ」というコンセプトはないようです。人寄せの図書館を求める市民が多数だったということのことかもしれませんが、実見してきてきた建物ただけに、残念だなと思いました。



まとめ

今回3つの図書館を見学して強く感じたのは、「市民と行政の関係がその図書館の特色になる」ということでした。岡崎市は規模が大きいだけに、職員とボランティアの距離に不安を感じ、解消されない行政の縦割りや、開館して見えてきた市民の縦割り感覚にも無力感を感じます。それでも、りぶらで「りぶらサポータークラブ」が活動できていることが、「図書館を核にした生涯学習施設」であるりぶらで、市民が自ら学び、活躍できる知的活動拠点として、これからの社会を先取りできる『人』を育む『楽・習・交流』の場」づくりに寄与していると自負しています。

しかし、それは「りぶら」という複合施設での話で、「図書館」についてはどうかというと、改めて

のアプローチが必要ではないかということ強く感じました。また、『図書館活用という時間軸をデザインする』の中で示した、「図書館という場のもつ多様性と可能性を最大限に引き出す10項目」を検証し、より多くの人に図書館に関心を持ってもらえるよう、取り組んでいきたいと思えます。

りぶらのオープン前にはよく出かけていた各地の図書館見学ですが、開館後は活動と運営ばかりに目が行き、他所の情報をシャットアウトしていました。秋穂図書館の布絵本のきっかけも伊万里市民図書館の壁面のタペストリーだったそうで、この機に、情報収集を行いながら活動につなげていきたいと思いました。





りぶら中央図書館情報

クリスマス・ふゆのおはなし会

ぱしょ：こどもとしょうしつ おはなしのへや

クリスマスのおはなし会

★ **12月19日(土)**
14:30~15:00

★ **12月21日(月)**
16:00~16:30

★ **12月24日(木)**
16:00~16:30

☆絵本や紙芝居のよみきかせ など

ふゆのおはなし会

★ **12月26日(土)**
15:30~16:00

対象：おおむね5才以上

☆絵本を使わないおはなし会です。
(ストーリーテリング)

岡崎市長 岡崎市長 岡崎市長

岡崎市立中央図書館 子ども図書室 0564-23-3111

レファレンス事例集

世界には日本とは異なる文化や習慣が数多くあります。食事方法ひとつを例にとっても、「箸食」・「手食」・「ナイフ、フォーク、スプーン食」と、大きく3つに分かれます。国が違えば食べ方もいろいろですね。中でも今回は、手を使って食べる方法＝「手食」に関するレファレンスを紹介します。



質問	インドの人はなぜ、カレーを手で食べるのか、知りたい。
回答	<p>【資料1】 p149 食事の際の手指の使用について記述あり。</p> <p>【資料2】 p36～「世界の食法」の項目に食法の違いの理由として、食物の違い・食事のマナーの違いが挙げられている。手食に関しては「主として宗教的な事情から誕生した食事マナーで「手食」の民族であるヒンズー教やイスラム教などでは、食事に道具を使うことは汚れたこととされ、手食が最も清浄であるとされている。」との記述あり。</p> <p>【資料3】 p17「ヒンドゥー教で「神様からあたえられたものを食べるのに道具を使うのは失礼」という考えがある」、p19 コラム「食器を使わないことからカレーが発展した!？」中に「熱い料理は、空気をふくませて冷ましながら手づかみで食べます。このため、カレーのようにかき混ぜて食べる料理が発展しました。」との記述あり。</p>
キーワード	「食文化」、「食事方法」、「インド」、「ヒンドゥー教」
参考資料	<p>【資料1】『世界の食文化 8 インド』石毛直道 監修／農山漁村文化協会／2006年／383.8 せ</p> <p>【資料2】『箸の文化史』一色八郎 著／御茶の水書房／1998年／383.8 ハ</p> <p>【資料3】『それ日本と逆!? 文化のちがひ習慣のちがひ 1』須藤健一 監修／学研教育出版／2012年／382 ン1 (児童書)</p>

徳川家康公顕彰四百年記念事業 3市交流コンサート in 岡崎 ～守屋純子オーケストラ～ 徳川家康公ジャズ組曲～ライブを開催します



平成 27 年（2015 年）は、徳川家康公の薨去四百年にあたります。この節目の年に、家康公ゆかりの地である、静岡、浜松、岡崎の 3 市が連携し、地域の魅力向上と活性化のため「徳川家康公顕彰四百年記念事業」を実施してきました。

そのフィナーレとして、12 月 26 日（土）午後 2 時からりぶらホールで、ジャズミュージシャンの守屋純子さん率いるオーケストラによるライブ（全席自由 3,000 円、りぶらで発売中）が行われます。守屋さんは顕彰四百年に合わせ、徳川家康公ジャズ組曲「厭離穢土、欣求浄土」を制作。家康公の人生に思いを馳せたジャズプレイを、迫力あるオーケストラでお楽しみいただけます。また、同曲を収録した CD アルバム「Play For Peace」が一般発売されています。ジャズコレクション展示室でも試聴できますので、ぜひご一聴を。

担当：中央図書館 企画班（電話 23-3167）

私の一冊 vol.34

「あらしのよるに」

きむらゆういち 作・あべ弘士 絵 講談社



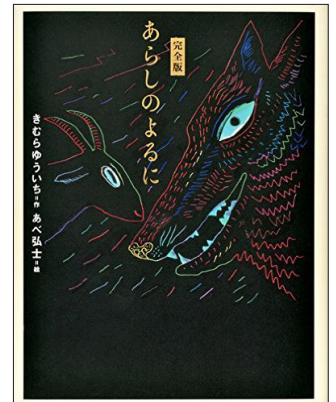
「あらしのよるに」と出会ったきっかけは、京都に新作歌舞伎を見に行く前に、原作をあらかじめ読んでおこうとしたからです。新作歌舞伎は、中村獅童（がぶ役）と尾上松也（めい役）を主役とした作品で、絵本を題材に歌舞伎で表現するものでした。3 時間にもわたる熱演で、笑いや涙ありで非常に感動しました。

話を本に戻しますと、ある嵐の夜に暗闇の中でやっと見つけた小屋で、狼のがぶと山羊のめいは、お互いに相手がどんな動物かわからないまま話が弾み、仲良しになりました。嵐はやみ、「あらしのよるに」を合言葉に再会を約束し、暗いうちに分かれることとなりました。

狼のがぶは、子どもの頃から仲間と馴染めず、いつも一人ぼっち。一方、山羊のめいは人気者でした。再会后、互いの正体がわかりましたが、この二人（？）の友情はこわれることはありませんでし

た。狼のがぶは山羊の肉が好物なのに必死で我慢し、めいを食べようとはしません。この食欲と友情との葛藤が大変面白い物語です。この作品は、第 1 作「あらしのよるに」から、この二人が一旦決別し、また再会する第 7 作「まんげつによるに」までシリーズ化されています。今回紹介したのは 7 巻分の物語が一冊で読める、「完全版」です。子どもから大人まで幅広く楽しめる 1 冊です。

絵本との出会いは意外と古く、ある人に無理やり誘われて、絵本作家さんの講演会に行ったのをきっかけに、意外と楽しみになりました。また今年の図書館まつりでは、男性職員による絵本読み聞かせを行い、貴重な経験となりました。図書館長として 1 年数か月が経過しましたが、これからも市民の皆様に親しまれる知の情報拠点となる図書館を目指してまいります。



水越 克彦（みずこしかつひこ）
中央図書館館長。
最近は新たに見つけたボランティア活動に生きがいを感じています。

りぶらまつり 2015 レポート



りぶらでつながりめぐ

11月の14日(土)・15日(日)。第7回目となる「りぶらまつり」が開催されました。今年のテーマは「りぶらでつながりめぐ」。初心に戻り、今後は毎回このテーマで「りぶらまつり」が開催されることになりました。

今年は、難聴者の方々にも対応できるよう、10月の実行委員会では「岡崎市難聴・中途失聴者の会」の羽田野裕子さんから話を伺い、それぞれのブースに「耳マーク」を設置することになりました。また、この時の実行委員会では、「あいち防災リーダー会西三河ブロック岡崎地区」の蜂須賀博英さんによる防災のお話もありました。そのお話しは、次号でご紹介します。

幕開けは、Beazzの楽しく賑やかな演奏。そして、りぶらサポータークラブ代表の杉浦とご来賓の内田市長の挨拶の後、ガールスカウト愛知県第12団の団員と「乙川リバーフロント地区 整備計画」の小林さんの開会宣言で2日間のりぶらまつりが始まりました。来賓として、りぶら総合館長の石川氏と中央図書館長の水越氏にもご出席いただきました。

初日はあいにくの雨模様となりましたが、館内の会議室やホールはもちろん、お堀通りお城通りを含む全館で、りぶらで活動する市民団体や様々な分野の実行委員が、工夫を凝らした企画を展開しました。



【りぶらまつり 2015 の記録】

来館者数	14日	6,648人
	15日	7,761人
	合計	14,409人
プログラム数		56企画
青空 FOOD 広場出店者数		8店
実行委員団体数		50団体
実行委員参加スタッフ数		454人
ボランティア数		16人
スタンプラリー参加者数	14日	373人
	15日	662人
	合計	1,035人
寄贈景品		1,559点
りぶらグッズ景品		520点
6/14 説明会参加人数		33人
実行委員会参加者人数	① 7/12	41人
	② 10/4	49人
	③ 11/1	42人
実行役員会開催日		7/5・8/29・9/27・10/25

【りぶらまつり 2015 の記憶 (アルバム)】はホームページで <http://www.libra-sc.jp>



「耳マーク」がある場

10月4日（日）午前 3F会議室
岡崎市難聴・中途失聴者の会
羽田野裕子（はたのひろこ）

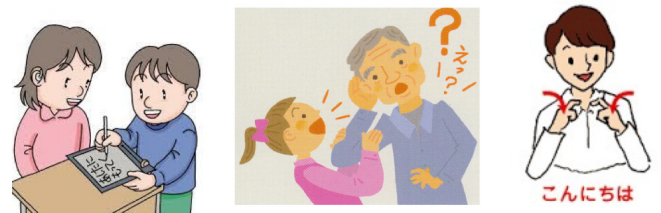


このたび「りぶらまつり 2015」に参加される団体さまのブースで、「耳マーク表示板」を設置していただくことになりました。岡崎市には市関係施設だけでも150個以上の「耳マーク表示板」が設置してあります。「耳の不自由な方は申し出ください」と記してあり、安心してコミュニケーションができる場となっています。表示板への指さし等で、本人から申し出があったら、話し言葉が見えるように配慮する必要があります。

耳が不自由な人はいろいろです。耳が不自由なことは外見からはわからない上、言葉を獲得してから聞こえなくなった人のほうが多く、大抵の人は流暢に話します。つつい「聞こえない人」ということを忘れて、配慮ができなくなってしまうことが多いのです。また、大人になってから聞こえなくなった人は、手話や口の形を読み取ることが苦手です。高齢難聴者も増えています。申し出があったら、話し言葉が見えるように心がけながら、伝えていただければ幸いです。

さて、どんな対応方法があるのでしょうか。口の形を見せ、合図をして、真正面からお話してください。

- ① ゆっくり目に大きく口をあけて話してください。
- ② 補聴器を利用している方には、静かな所で話をして下さい。
- ③ 身振りを加えながらゆっくり話すと、話が見え、分かりやすくなります。
- ④ 手話ができる方は、使って話してください。その際、声を出してゆっくり話しながらしてください。
- ⑤ どうしても通じない時や、金額・場所・時間など、大事な内容は、相手が頷いていても（分かったふりをしていたり、わかったつもりになっている）、必ず筆談してください。
- ⑥ りぶらには、大ホールに「埋蔵式磁気誘導ループ」があります。市民活動センターには「携帯式大型磁気誘導ループ」と「携帯式小型磁気誘導ループ」が備品として置いてあります。補聴器を使用する方には「磁気誘導ループ」があることを伝え、利用していただけるように情報を常に流してください。



【聞こえの環境を整える】

ところで、「耳が聞こえないって」どういうことでしょうか？ 皆さんの耳に自然に入ってくる言葉や物音、環境音が聞こえないということです。言葉や環境音などを、前述の①から⑤のように、目でわかるように伝えることが大切です。

その他には、「聞こえの環境を整える」ことが必要です。「文字」「光」「振動」のある場を増やすことです。例えば、街に流れているテレビ放送や邦画にも字幕を流すことです。テレビ放送は、市民の皆さんがリモコンボタンを押すことで環境が改善します。また、非常ベルは、音のほかに「光」を併用する必要があります。呼び出し音は「振動」と一緒に流します。災害時の避難所では、音声情報と文字情報を同時に流すことができるよう、日頃から訓練をしていきましょう。

「障害は社会がつくる」と言われるようになりました。耳が不自由で困っていても「耳マーク」がある場が増えると、配慮ある対応の場も増え、不自由なことが減っていきます。みなさんが様々な障害を知って意識を持つことが、住みよい社会をつくっていきます。共に同じ場で生活できるよう社会を変えていきましょう。

りぶらサポータークラブからのお知らせ

平成 28 年「新世紀岡崎チャレンジ 100」採択事業 LSC 岡崎図書館未来企画主催

「困ったときには図書館へ」連続講演会

- | | |
|-------------------|--|
| 第 1 回 5/28 (土) 午後 | 「困ったときには図書館へ」
神代 浩氏 (文部科学省初等中等教育局国際教育課長)
岡本 真氏 (アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表) |
| 第 2 回 7/9 (土) 午後 | 「仕事と図書館」秋元 祥治氏 (OKa - Biz (オカビズ)) |
| 第 3 回 8/18 (木) 午後 | 「子育てと図書館」飛鷹 正範氏 (三河子育てパパネット) |
| 第 4 回 10/2 (日) 午後 | 「市民活動と図書館」三矢 勝司氏 (まち育てセンター・りた) |
| 第 5 回 12/4 (日) 午後 | 「病気と図書館」金田 亜可根氏 (ホスピス研究会 OKAZAKI) |
| 第 6 回 2/19 (日) 午後 | 「まとめ」神代 浩氏と岡本 真氏と中央図書館長 |

※ 日時および講師は変更になる場合があります。

外国人が日本語の歌を歌う のど自慢大会 vol.6

日時：2016 年 2 月 20 日 (土)

予選：13:00 ~ 14:30 (15 組)

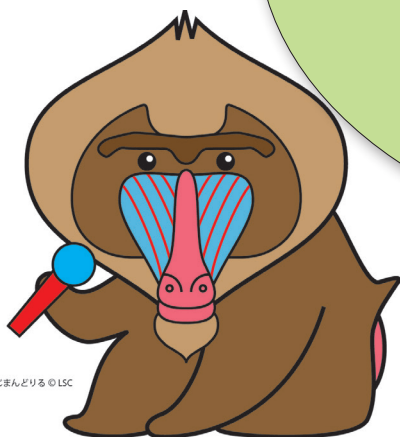
決勝：15:00 ~ 16:00 (5 組)

場所：りぶらホール

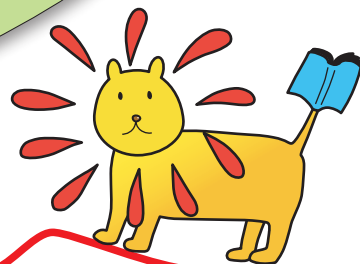
条件：外国人の方、グループの参加でも OK。

優勝者には 景品プレゼント☆

12/20 から出演者受付!!



のどじまんどりのりぶら



りぶらいおん©LSC

Libra | on vol.39 2015/12/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行：りぶらサポータークラブ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 info@libra-sc.jp http://www.libra-sc.jp
携帯電話：070-5252-7263 / 070-5333-1842 月・火・木・金：13:30 ~ 16:30

そうだ！りぶらをサポートしよう！
(1) 活動サポーター (登録のみ)
(2) 賛助サポーター (年会費) 2,000 円
随時、ご寄付も受け付けています。